

令和6年度 第3回 図書館協議会 会議録

1 日時

令和7年3月18日（火）午後2時30分～午後4時

2 場所

ラトブ4階 いわき総合図書館学習室

3 出席者

(1) 委員

委員長 小野 順一

副委員長 柳田 明美

委員 柴田 達八、渡部 純子、吉村 忠晴、長岡 智子、青山 岳志

（欠席者）塩 陽子、草野 祐香利、有賀 史人、

(2) 事務局

ア いわき総合図書館

矢吹館長、黒羽副館長、秋山副館長、片寄主任主査、小林主任主査、

桑原総務管理係長、横田情報資料係長

イ 地区図書館

小名浜図書館長、勿来図書館長、常磐図書館長、内郷図書館長、四倉図書館副館長

4 議事

(1) 案件

ア 令和6年度図書館利用実績等（1月末日現在）について

イ 令和7年度当初予算について

(2) 協議事項

ア 令和7年度運営方針、重点事業及び主要事業（案）について

イ 令和7年度事業計画（案）について

ウ 令和7年度移動図書館運行計画（案）について

5 その他

6 閉会

－ 会議内容 （司会進行：黒羽副館長） －

1 開会

（委員 10 名中 7 名が出席しており、いわき市立図書館協議会規則第 4 条第 1 項の規定による半数以上の出席があり、会議が成立した。）

2 委員長あいさつ 小野委員長

3 議事

いわき市立図書館協議会規則第 2 条第 3 項の規定により、小野委員長が議長となり、会議を進行した。

(1) 案件

ア 令和 6 年度図書館利用実績等（1 月末日現在）について

事務局より、会議資料 3～11 頁に基づき説明した。

令和 7 年 1 月末日現在の登録者数については、市の人口（約 32 万人）に対して、有効登録者数が人口の約 23%、新規登録者数は人口の約 10%に止まっていること、市立図書館全体の貸出冊数は横這いであるが、総合図書館では児童書の貸出冊数が増加していることなどを説明した。（総務管理係長）

イ 令和 7 年度当初予算について

事務局より、会議資料 12 頁に基づき説明した。（総務管理係長）

（意見、質疑応答）

吉 村 委 員：会議資料に「有効登録者数実績」とあるが、登録者の延べ人数はどのくらいなのか。

事 務 局：資料にある有効登録者数は、令和 7 年 1 月末日現在における市立図書館の登録者数の総数である。

吉 村 委 員：新規登録者が毎年 3 万人前後あるようだが、なぜ有効登録者数が 7 万 2 千人程度なのか。

事 務 局：図書館利用カードには有効期間があり、個人は 5 年間、団体は 1 年間となっている。それぞれの利用登録期間内が有効である登録者数を有効登録者数としている。更新手続きを行わないと無効となることから、新規登録者数の延べ人数と有効登録者数は合わない。図書館利用カードの更新手続きの案内を工夫することで、有効登録者数や貸出冊数の増加につな

がるのではないかと推測している。

吉 村 委 員：図書館の来館者における、ラトブ駐車場の利用者数などは把握しているか。

事 務 局：現時点では把握はしていない。駐車場の管理はラトブコーポレーションで行っている。

吉 村 委 員：バスの運行本数が減っているので、来館者の交通手段など利用者の傾向を知ること、今後の図書館運営を考えるうえで有効だと思う。

事 務 局：承知した。

(2) 協議事項

ア 令和7年度運営方針、重点事業及び主要事業（案）について

事務局より、会議資料13～17頁に基づき、重点事業及び主要事業について、継続して実施することなど説明した。（秋山副館長）

イ 令和7年度事業計画（案）について

事務局より、会議資料18～24頁に基づき、令和7年度企画展及び常設展、チャレンジホームの増設に伴う配本箇所の増、視覚障がいや活字を読むことに支障がある子どもたちの読書支援の場として「りんごの棚」の試行的設置などについて説明した。（情報資料係長）

ウ 令和7年度移動図書館運行計画（案）について

事務局より、会議資料25～26頁に基づき説明した。（片寄主任主査）

（意見、質疑応答）

渡 部 委 員：高校生のインターンシップ受入れについて、受入実績と令和7年度の受入予定などについて伺いたい。

事 務 局：令和6年度については、10月に1校2名を受け入れた。令和7年度についても、日程が調整できれば可能な範囲で受入れを行いたいと考えている。

小野委員長：読書活動推進モデル事業は新規事業か。

事 務 局：「第四期いわき市子ども読書活動推進計画」の新規事業になる。図書館の学校支援サービスについて、現状課題を把握するため実施している。現

在は読書活動実践校に協力いただき、令和5、6年度に小学校2校、令和6年度はさらに中学校1校が追加となり、合計3校をモデル校としている。事業内容としては、図書のセット貸出し、移動図書館の臨時巡回、電子図書館の出前講座などを実施した。

小野委員長：移動図書館では保育所や幼稚園などへの巡回が多くあるが、本の貸出・返却のほかに、子どもたちとの触れ合いなども行っているのか。

事務局：基本的には児童も一緒に利用してもらっているが、施設によっては先生が選書するところもある。

柳田副委員長：今年度は故障による移動図書館の運休があったようだが、車両の劣化などがあるのか。

事務局：常時3千冊程度を積載しており、中山間部なども巡回しているため、車両にも負荷がかかっていると思われる。今回はパワーステアリングやトランスミッション系の故障で、安全運行のためやむを得ない運休と認識している。

柳田副委員長：現在の移動図書館車は、何年前に導入したものか。

事務局：しおかぜが平成22年に、いわき号が平成25年に車両の更新を行っている。しおかぜは15年、いわき号は12年経過している。

柴田委員：移動図書館の巡回場所について、保育所、幼稚園、学校などは子どもたちの利用があると思うが、スーパーなどの駐車場での貸出状況について伺いたい。

事務局：移動図書館は、一般の利用者にも多く利用されている。個人利用の他、地域住民により構成された地域文庫や自治会なども巡回している。

柴田委員：学校以外の巡回場所でも、楽しみにしている利用者は多いのか。

事務局：毎月楽しみにしている方が多いので、引き続き巡回していく。なお、巡回場所については、毎年新規巡回の相談をいただくが、現状ではスケジュール的に難しい。

小野委員長：特別整理期間では蔵書点検を行うと思うが、未返却本や不明本について伺いたい。

事務局：未返却本については、定期的に督促を行っている。なお、60日以上返却がない場合は利用停止となり、貸出や予約が出来なくなる。

また、配架違いなどで不明になっている本についても、蔵書点検を行

うことで正しい配架場所に戻している。

※ 以上で議事はすべて終了し、協議事項については原案通り承認となった。

引き続き、今年度をもって全員が任期満了となることから、委員長より各委員から感想や意見を求める発言があった。

柴田委員：小中学校の教育現場の立場から参加し、本市の図書館活動や子ども読書活動の実態などを知ることができ大変よかった。

学校司書の配置が進み、ボランティアの協力などもあり、学校では子どもたちが本に接する機会が増えている。一方で、子どもや保護者へのアンケート結果では、家で読書をする子どもが少ないことが分かってきた。これを踏まえて、今後学校でも読書の取り組みを進めたい。

渡部委員：県立高校でも定員割れとなる学校が複数あり、学校の統合も進んでいる。子どもの数は減少しているが、引き続き読書活動を進めていきたい。課題研究などにおいて市立図書館を利用するよう、引き続き働きかけていきたい。

吉村委員：図書館協議会に参加し、市立図書館が様々なサービスや事業に取り組んでいることを知ることができ、非常に感銘を受けている。今後とも図書館利用が促進されるように尽力いただきたい。

長岡委員：図書館協議会に参加し、様々な取り組みを知ることができた。音訳ボランティアをしているが、視覚や聴覚に障がいがある人達が利用しやすい図書館になれば、誰でも利用しやすい図書館になると思うので、今後とも協力していきたい。

青山委員：出掛けた先で様々な図書館を見てきたが、いわき総合図書館は開放的で居心地がよい図書館だと思う。今後も利用者として通いたい。

柳田副委員長：読み聞かせ活動では、図書館にとってもお世話になっている。絵本選びの際、特に内郷図書館のスタッフには親身になってもらった。子どもたちに絵本を届けながら、自分でも楽しみながら絵本に触れている。支援学校での読み聞かせでは絵本選びが難しい場合があるが、図書館の職員に助けら

れ、非常にありがたく思っている。

小野委員長：いわき総合図書館が開館して18年になるが、企画展や常設展のクオリティがとても高く、これらの展示を振り返る企画展を開催するのはいいか。企画展担当者のインタビューや苦労話、展示の裏話など、図書館職員も前に出て声が聴けるようなものになればおもしろいのではないかな。

また、ナイトライブラリーを開催してはどうか。水族館などでは開催しているところもあり、以前参加した際、よい思い出となったので、施設管理上可能であれば図書館でも同様の取り組みをしてもおもしろいのではないかなと思う。

4 その他

図書館職員のうち、本年度末をもって退職するいわき総合図書館長、内郷図書館長よりあいさつを行った。

5 閉会